

平成22年度農林水産試験研究事後評価（平成22年8月2日開催）結果

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント
1	農業総合研究センター	能登特産カボチャ・白ネギの省力・安定生産技術の確立	H19～21	能登特産カボチャは、作付けが減少している葉たばこの代替作物として期待されている。そこで葉たばこ用機械を利用したカボチャの新しい栽培法を開発する。 能登白ネギは、需要が多い冬季の安定供給が課題であり、生産性の高いハウスにおける超密植栽培技術を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>省力、コスト減を問題としているが、ブランド化であるので高品質化が必要ではないか。</li> <li>慣行栽培と比べ同等の収量でコスト50%削減は大変評価できる。</li> <li>成果の普及という点では、加工適性の高い品種をもっと絞る必要があると思う。</li> <li>高畝溝植栽培法を確立したことは評価できる。</li> <li>加工用のカボチャは産地として品種の限定をすべきでは。ブランド化を図ってください。</li> <li>能登カボチャの高畝溝植栽培法は葉たばこの機械をうまく利活用できていて収量も通常の慣行栽培法並の収量が見込めるとのことで重要課題である品種の確立をしてほしいと思います。</li> <li>葉たばこ用機械を有効利用し、能登カボチャ生産と組み合わせてコストダウンを達成した点については評価できる。</li> </ul>
2	農業総合研究センター	ニッチトップを目指した極小輪切り花の栽培技術の開発	H19～21	県では、ケイトウとハボタン等でニッチトップの産地づくりを進めている。近年フラワーアレンジメントが普及し、ケイトウやハボタンは、これまで以上に花の小さいものが求められている。そこで、ケイトウとハボタンの極小輪化を図るため、ケイトウではハウス内での根域制限技術、ハボタンでは直播密植栽培技術等を開発する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎技術は他へも移転可能と思われる。市場ニーズをとらえ、極小輪化技術の開発に成功した事は評価できる。</li> <li>普及には、イニシャルコスト面をクリアし、事業の継続性という点において収益の高い出荷時期を考慮する事も必要であると考えます。</li> <li>今後の普及活動に期待。</li> <li>セルトレイの栽培法にも期待。市場をコントロールできるくらいの生産高にしていって下さい。</li> </ul>
3	農業総合研究センター	大豆の生産力向上技術の確立	H19～21	近年、大豆の収量は低下傾向にあり、地力低下が要因と言われているが詳細は明らかではない。そこで堆肥や緑肥など投入する有機物の種類、肥料の種類などの観点から生育量との関係を解析し、増収要因を明らかにすることにより、大豆の生産力向上技術を確立する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆肥の効果はチッソ肥料ではなく、土壌改良の意味が大きいのではないか。</li> <li>この成果を地域で入手可能な堆肥で応用し、また、新たな有機肥料の開発につなげる事を期待する。</li> <li>今後の大豆の生産拡大を期待したい。</li> <li>表の中に石川県全体での生産金額の記入が欲しい。経済効果は常に見ていきたい。</li> <li>大豆の反収入からコスト計算すると、今以上のコストをかけるのは普及をするのは難しく、今後の課題になると思います。</li> <li>大豆収量・品質に対する関連要因が多すぎるため、その整理がまず必要であろう。</li> </ul>
4	畜産総合センター	脂肪酸組成に着目した「能登牛」生産技術の開発	H18～21	牛肉の美味しさを示す指標として、脂肪中のオレイン酸割合が、最近注目されてきたことから、オレイン酸を増やす技術開発として、県内に豊富な食品製造副産物でオレイン酸割合が多い生米ぬかの飼料添加技術の開発に取り組んだ。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンプル頭が高価なため、1回の試験であれもこれも研究をしすぎている。</li> <li>生米ぬか添加による食味向上（オレイン酸割合増加）と飼料費の低コスト化につながるという成果は評価できるが、疾病発生状況との関係は引き続き注意が必要と思われる。</li> <li>もう少し頭数を増やして研究する事も必要ではないか。</li> <li>もっと能登牛の特徴を出す方法はないのだろうか。</li> <li>試験研究テーマである生産技術の開発としては、オレイン酸含有量の増加に成功し、結果が出たと思います。今後は、是非、「能登牛」ブランド化に向けて開発してほしいと思います。</li> <li>世界的な飼料価格高騰の流れの中で、生米ぬか活用により肉質改善を図ることができれば一石二鳥ではあるが、投与による疾病発生との関係などもあり、また、生ぬか自体の保存法も十分確立されておらず、これらの解決が先決であろう。</li> </ul>
5	水産総合センター	貝類資源の増殖に適した底質環境の改善に関する研究	H19～21	七尾湾はアカガイの好漁場であったが、一部の海域で夏期に底質環境の悪化によるへい死が起こっている。そこで微細気泡発生装置と粉砕カキ殻の覆砂を行い、底質環境を改善し、へい死を防ぐ方法を検討した。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>大変興味深い成果だが、原因究明には現地試験ではなく、室内実験が望ましい。斃死原因の解明を期待する。</li> <li>七尾市の下水道の普及率の低さも原因の1つではないか。もう少し研究の余地もあるのではないか。</li> <li>石川県の飲食店において欲しいアカガイです。早く答えをだして欲しい。</li> <li>斃死の原因を解明し、困難である海底調査を引き続き継続してほしいと思います。</li> <li>斃死の真の原因解明が急務であろう。</li> </ul>